

Teach For JAPAN

Annual Report 2014

年次報告書

私たちのミッションは、 「教室から、社会を変える」こと。

認定NPO法人 Teach For Japanは、独自に採用した人材に

研修を行った上で、2年間、公立学校の教師として赴任させる

フェローシップ・プログラムを実施・運営しています。

私たちは、教師は子どもたちの人生に大きな影響を与える

存在であり、教室こそがより多くの子どもたちに出会える

場所であると捉えています。そして、さまざまな教育課題を、

教師一人ひとりの手で、他でもない「教室」から

解決していこうと考えています。



CONTENTS

What is Teach For Japan?

代表挨拶	04
ビジョン/ミッション	06
私たちの取り組む課題	08
社会的インパクト	10
フェローシップ・プログラム	12
採用・選考	14
研修	16
支援	18
修了生ネットワーク	19
教育政策提言	20
Learning for All	22
震災復興支援・子どもの学びと居場所づくり	

About us & Our Supporters

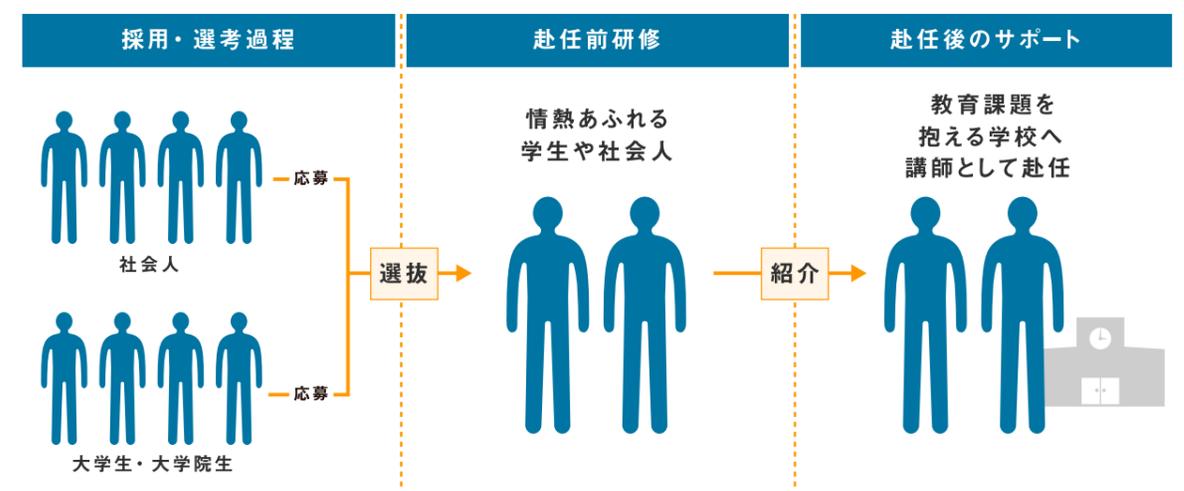
フェロー対談	24
組織・ガバナンス体制	28
職員	29
理事・監事	30
トピック	32
財務報告	34
支援者からのメッセージ	36
海外とのネットワーク	38
協賛企業	40

What is Teach For Japan?

私たちの活動—フェロシップ・プログラム

さまざまな経験と教育への問題意識、情熱と成長意欲を兼ね備えた人材を、独自に選抜し、採用。赴任前に研修を行った上で、公立学校の教師として配置します。そして、子どもたちの学力と学習意欲の向上、学習習慣の定着などを実現することをめざしています。

フェロシップ・プログラムのモデル図



Teach For Japan 5年目の挑戦へ。

おかげさまでTeach For Japan（以下、「TFJ」）は5年目の挑戦に臨もうとしています。今振り返ると何もないところからただ前を向き全力で走ってきた4年間でした。当初、TFJのモデルは日本で実現できない理由の方が多いほどでしたが、それでも皆様のお力添えをいただきながら、フェロー（TFJ教師）2期生も学校現場に入り、少しずつ教育現場にインパクトを出せるようになってきていると実感しております。皆さまからのご支援に本当に感謝しております。5年目を迎えたTFJは3つの挑戦をしていく所存です。

その1つ目は、優秀で情熱のある人材を、厳しい環境にいる子どもたちが多い学校に配置していくフェローシップ・プログラムの充実です。学校現場に赴任するフェローの数だけでなく、フェロー育成、支援体制の拡充をして参ります。

2つ目は、2015年からプログラムの効果測定を開始していきます。教育委員会、自治体、慶應義塾大学と連携しながら、プログラムを通しての成果、子どもたちの学力伸張や学習意欲の変遷、また360°評価を通しエビデンスに基づいたプログラム成果の測定をしていくこともスタートします。こうしたエビデンスに基づいた教育の効果測定が説明責任を果たしていく上での一助になるのみならず、我々のプログラムを改善していく貴重な情報となりますので、しっかりと効果測定に取り組んでいきます。

3つ目は、教育政策提言にも本腰を入れて取り組んで参ります。フェロー1、2期生合わせて24名、3期生も15名の採用を予定しておりますが、彼らと与えるインパクトは数千名の子どもたちにとどまっています。私たちのビジョンである「すべての子どもたちが素晴らしい教

育を受けることができる社会」を実現するためには、我々のフェローを通してのインパクトだけでなく、既存の教員採用・養成を抜本的に変えることができるのが非常に重要になってきます。

2014年より、私は奈良市教育振興戦略懇談会に参加させていただいています。そこで奈良市の教員採用・養成における課題抽出、そして理想と現実のギャップを埋めていく施策の提言を進めています。教員の多忙化がなぜ起こるのか、どういった業務が意義があって意義がないのか、教員養成・研修に提供されている内容に意味があるのかを整理をし、課題を抽出した後にそれを解決していく施策を奈良市の教育5か年のビジョンに入れていきたいと考えています。こういったことを通してTFJが単体で出せるインパクトを拡大していきます。

しかしそのためには課題も多くあります。安定した資金基盤をどう築いていくのか、優秀な人材をどう採用するのか、そして教育委員会との連携をどう強化していくのか。課題はまだたくさんございます。もちろん我々は、一つ一つの課題を乗り越えていくべく全力を尽くしていきますが、皆さまからのお力添えをいただきながら形にしていきたいと思っております。2014年もあつという間に過ぎてしまい、5年目の2015年もあつという間に過ぎてしまうのではないかと考えておりますが、その中でも挑戦を続け、すべての子どもたちの教育環境を改善していくことに全力を尽くして参ります。是非、皆様からのフェロー候補のご紹介やご寄付・ご支援などを通して、皆様と一緒に一人でも多くの子どもたちに素晴らしい教育を提供できるように、お力添えをいただければと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

Teach For Japan代表理事 / CEO

松田 悠介

「今が第二の創業。
一つ一つの課題を
乗り越えていくべく、
全力を尽くしていきます」



Vision

私たちのビジョン

すべての子どもが、成長できる「教室」。

すべての子どもが素晴らしい教育を受けることができる社会の実現を目指します。

Mission

私たちのミッション

教室から社会を変える。

素晴らしい教育を受ける機会をより多くの子どもたちに広めるため、優秀で意欲ある若者を選抜し、指導力の高い教師として、そして社会のリーダーとして貢献するための育成・支援を行います。

より質の高い教育を、すべての子どもたちが受けられる社会に

教室を、社会を変えていく出発点にするために

各種の国際的な調査では、日本の学校では、世界でも有数の質の高い教育が行われていることが指摘されています。教育に携わる人々は、私たちを含め、まずそのことを誇るべきだと思います。

とはいえ、解決すべき課題がないわけではありません。しかも、それらの課題のほとんどは、日本の将来や、子どもたちの将来のあるべき姿を鑑みると、緊急性が高いものばかりです。

私たちは、多様な経験を積み、かつ、教育への情熱と成長意欲を兼ね備えた人材を学校現場に赴任させることで、それぞれの教室で多様でより質の高い教育を実現するとともに、その教室や学校での問題解決を促進します。そして、子どもたちの学力や学習意欲の向上を実現します。

そうした教育は一部の子どもたちにしか行われないものであってはなりません。すべての子どもたちが、生まれた環境に関わらず、より質の高い教育を受けることができ、その可能性を最大限に広げていける。私たちは、こうした社会をめざしていきます。

私たちは、学校の教室から社会を変えていきたいと考えています。まずは、一教師として教室の子どもたちの学力や学習意欲、自己肯定感を向上させます。そして、その影響を一つの教室だけに留めることなく、赴任する学校や地域全体に広げていくことをめざします。そうした好事例を多くの学校や地域で積み重ね、日本全体の教育の質を高めていきたいと考えています。

また、幅広い人材が学校現場での教師として、言い換えれば教育の当事者としての経験をするすることで、学校や子どもたちに対して、強い想いとリアリティを持った人材を多く輩出することにつながります。彼ら・彼女が、プログラムの修了後、さまざまなセクターで活躍することで、教育をよりよくしようという議論やムーブメントが社会全体に広がっていき、教育改革の実現をより確かなものにしていきます。

このように、教室から出発し、社会全体に対して、教育改革に向かうインパクトを与えていくこと。これこそがわたしたちのビジョンです。

【TFJが取り組む3つのこと】

社会・経済的格差を解決すること

生まれた地域環境や家庭環境に関わらず、教育によって人生を切り拓くことができるように



私たちは、社会のインフラともいえる公教育、そしてそこに携わる教師によるはたらきかけこそが、あらゆる子どもたちに支援を行き届かせる最も有効な手段であると考えています。

教育そのものの質を変えていくこと

自治体・専門家との協働により新しい教育実践が開発されノウハウが蓄積されるように



私たちは、最新の知見に基づいた教育実践に積極的に取り組み、それによって得られたノウハウを蓄積・共有し、学校現場で広く生かされるものにしていきます。

多様な人材を教育現場に送ること

さまざまな経験を持った教師たちにより、多様な教育方法や新たな学校文化・教育文化が生まれるように



今、社会においても学校教育の現場においても、「多様性」が重視されています。そのためには、教師にも今まで以上に多様性が求められるでしょう。

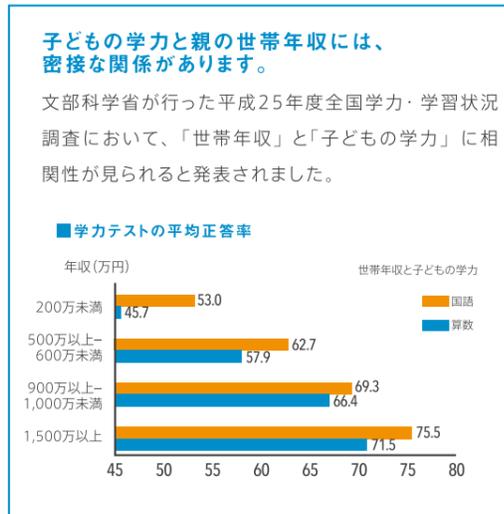
Our Challenge

私たちの取り組む課題

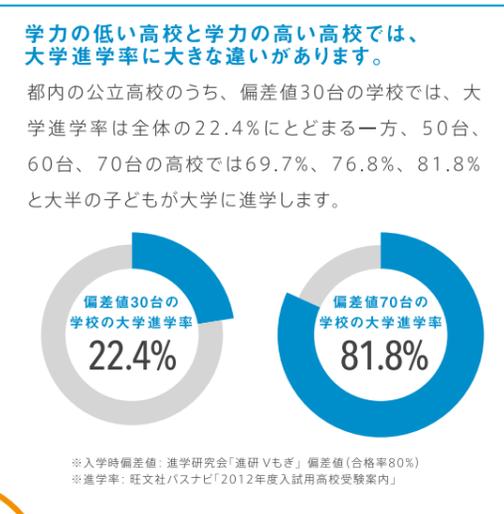
私たちが解決したい課題は、次の3つ。1つ目は、社会全体の課題。2つ目は、教育内容の課題。そして3つ目は、教育に携わる「人」、つまり、教員採用や研修のあり方についての課題です。

社会・経済的格差を解決する

教育によって「格差」が再生産されてしまっている現状があります。



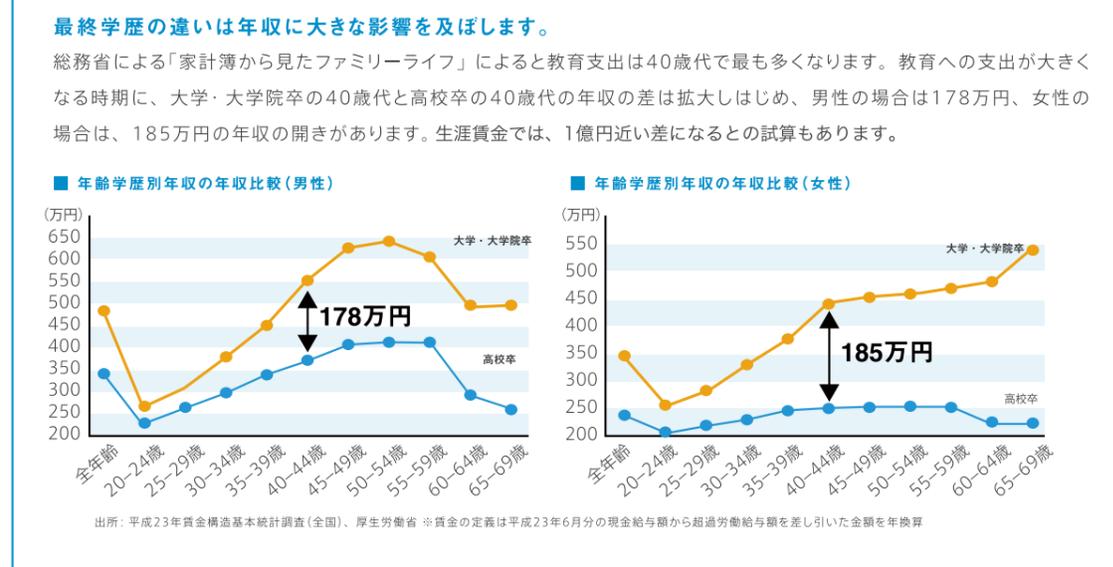
教育機会への影響



子どもへの影響

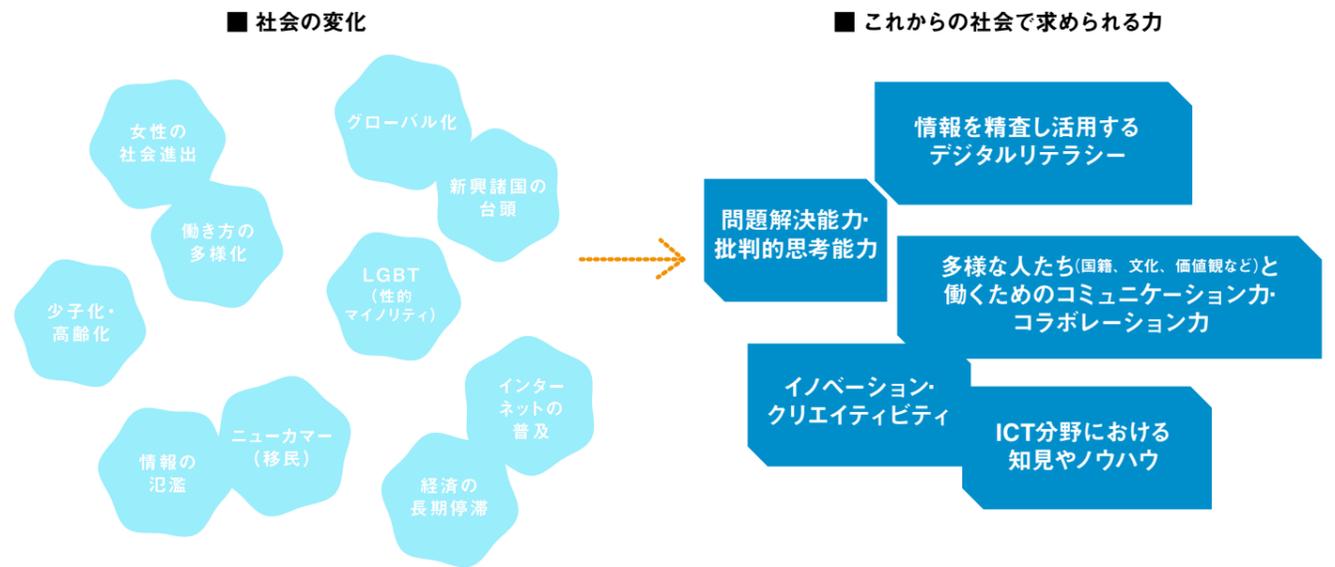
教育による、社会・経済的格差の再生産サイクル

年収への影響



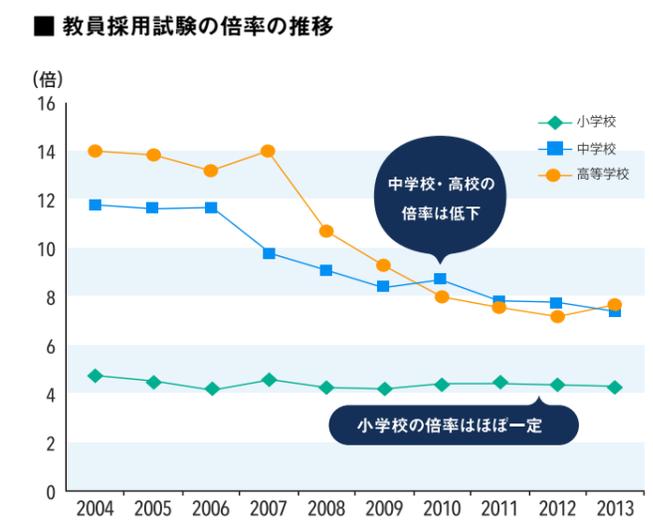
教育そのものの質を変えていく

産業構造や社会情勢の変化に対応した教育実践や、特別なニーズを持った子どもたちへの支援のあり方が求められています。



多様な人材を教育現場に送る

教員志望者の「量」的な確保の問題に加え、「質」的に多様な人材へのニーズが高まっています。



■ 教員採用における、民間企業出身者の割合

10人に1人も満たないのが現状

	全体	民間企業等勤務経験者	民間企業等勤務経験者の割合
小学校	13,232 人	654 人	4.9%
中学校	8,173 人	442 人	5.4%
高等学校	4,606 人	369 人	8.0%

*「民間企業等勤務経験者」とは、公立学校教員採用前の職として教職以外の継続的な雇用に係る勤務経験のあった者をいう。ただし、いわゆるアルバイトの経験は除く。
*文部科学省平成25年度公立学校教員採用試験の実施状況についてより

Social Impact

社会的インパクト

TFJがフェローシップ・プログラムの実施・運営を通じて与えていきたい社会的なインパクトの範囲は、教師(フェロー)の教室だけに留まりません。このプログラムの斬新な点は、それが広がっていく仕組みである点です。

■ Teach For Japanが目指す社会的インパクト

短期から長期へ。インパクトが、教師(フェロー)の教室に始まり、学校全体、そして地域社会。さらには社会全体へと波及していくことをめざします。

短期的インパクト

導入

学校現場へ配置された教師(フェロー)たちは、児童生徒の目標達成が実現できるような学習環境の提供に尽力します。

中期的インパクト

波及効果

TFJ内に蓄積された、教員採用・教員養成やサポートのノウハウを体系化し、教育委員会や学校現場への情報共有を通じて、地域全体の教育レベルの向上を実現します。

長期的インパクト

社会全体の教育改革

教師(フェロー)たちは、学校での教員経験を経て、教育への課題意識を持ったリーダーに成長します。プログラム後も修了生として、学校現場や各界のリーダーとして活躍し、社会全体を巻き込んで教育改革を実現します。

【それぞれのセクターの関係性】

教師(フェロー)

現場におけるより良い教室・授業実践の追求

さまざまな経験があり、かつ教育への情熱と成長意欲を兼ね備えた人材を学校現場に派遣し、それぞれの教室でより質の高い教育を実現するとともに、その教室や学校での課題解決を促進します。

TFJ事務局

教員養成などの制度改革・政策提言

教師(フェロー)の日々の実践を分析し、また、その中でも特に高いパフォーマンスを発揮した教師(フェロー)の採用時のデータを分析・体系化して、教員養成や採用の仕組みについて、教育政策提言を行います。

すべての子どもが素晴らしい教育を受けることのできる社会の実現

社会全体

フェロー修了後に教育現場や各界のリーダーとしての課題解決

教育課題への深い理解とその解決への意欲を備えた修了生たちを学校現場のみならず、行政機関・企業などに広く輩出することで社会全体で教育課題を解決する仕組みを創造します。

教育行政

教育養成や採用、学校運営の改善に向けた取り組み

既存の教員養成や採用試験の仕組みを変革し、これまでであれば教師にはならなかったような、多様な経験があり、かつ、教育への強い熱意がある人材が教育現場で教師として活躍できるようにしていきます。そして、そうした多様な人材により、新しい教育を具現化します。

Fellowship Program

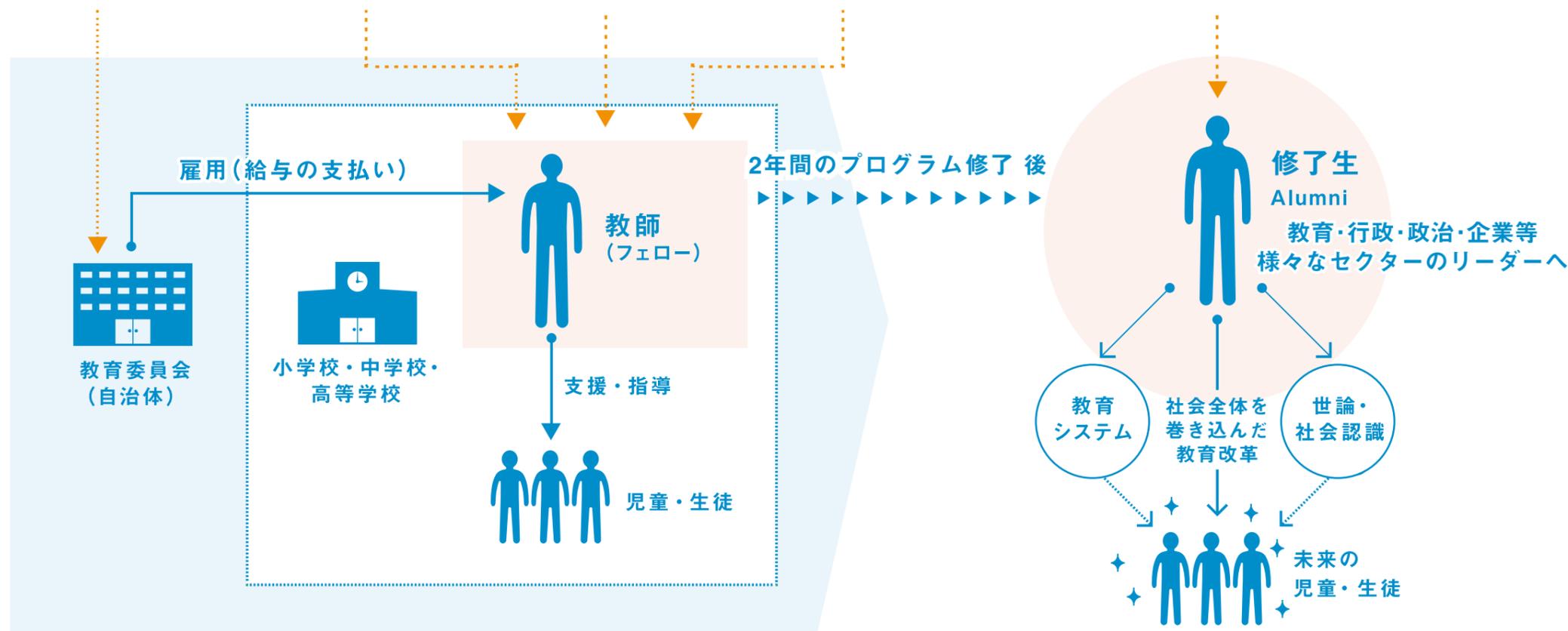
フェローシップ・プログラム

2015年4月には15名の教師(フェロー)3期生を送り出したフェローシップ・プログラム。2013年4月からの累計では、これまで39名の多様な人材を教育現場に派遣しています。

■ フェローシップ・プログラムの仕組み

以下のような仕組みで、教師(フェロー)の採用から事前の研修、支援までを行い、教育の質を高め、また、教育に当事者意識を持つ方を増やそうと。そして、社会全体で教育課題の解決に臨めるようにすることがプログラムの目的です。

自治体連携	採用・選考	研修	支援	修了生サポート
<ul style="list-style-type: none"> 課題、ニーズの把握 教師(フェロー)の配置校調整/マッチング 	<ul style="list-style-type: none"> 選抜の実施 教師(フェロー)の自治体への紹介 <p>p14-15</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事前課題/内定者研修 赴任前の実践的な合宿型集中研修 <p>p16-17</p>	<ul style="list-style-type: none"> 継続的なメンタリング/コーチング 定期的な集合研修会 授業観察/フィードバック 効果測定 <p>p18</p>	<ul style="list-style-type: none"> プログラム修了後の就業支援 修了生同士のネットワーキングの支援 <p>p19</p>



すべての子どもたちが素晴らしい教育を受けられる社会の実現

FAQ

- Q. なぜ「学校の教師の派遣」を課題の解決手段に選んだのですか？**
A. 学校の教室が、より多く子どもと出会い、より影響を与えられる場所だからです。

子どもたちの支援の方法には、さまざまな形があります。しかし、学校の教師との出会いは、他のどのような支援よりも、子どもの人生に大きな影響を与えうるものだと考えています。また、毎日、多くの時間、継続的に接するという意味でも、学校の教師として子どもたちの指導に当たることこそ、子どもたちをより包括的に支援しようする方法だと思っています。

- Q. なぜ、派遣の期間を「2年間」としているのですか？**
A. 「2年間」は、これから教育でのキャリアを歩むための、「最初の2年」に過ぎません。

2年間というのは、TFJが継続的な支援を行う期間であって、3年目以降の教師の継続を妨げるものではありません。ただ、当初「2年間」という、限定された決して長くはない期間と考えてスタートするからこそ、最初から全力で臨めるのです。また、私たちは、2年を1つのサイクルとしてほしいと思っています。1年目は、信頼関係構築や課題の特定・分析に、2年目は1年目で特定された課題の解決に集中的に取り組みます。TFJは、フェローが2年目に劇的な成長を遂げ、学級、学校、地域に変容をもたらすことができるよう、継続的な支援を行います。

- Q. 勤務先の学校ではどのような立場で働くのですか？**
A. 原則として「常勤講師」として勤めていただきます。

常勤講師は、教員採用試験に合格した「教諭」(俗に、正採用や正規教員などと呼ばれます)とは異なり、正規教員の欠員状況に応じて、都道府県から任用されます。雇用契約は各自治体と結ぶこととなりますので、TFJとの間で雇用契約は発生しません。給与は、各自治体の規定に基づいて支払われます。また、勤務時間、仕事内容は自治体によって定められており、学級担任、校務分掌、部活動、特別支援学級を担当する場合がありますが、詳細な業務内容については各学校長の判断によりますので、勤務開始後に決定します。

- Q. 教員免許は必須ですか。また、免許状の種類に制限はありますか？**
A. 持っていることが望ましいですが、必須ではありません。また、種類の制限は特にありません。

「必須」ではありません。というのは、数名ですが、特別免許状制度を活用し、教員免許をお持ちでない方も、社会人経験や特別に秀でた英語運用能力等を評価し、免許を付与することが可能だからです。また、団体として、小学校教員資格認定試験の受験奨励を通して、現時点で教員免許を持たない方が本年度中に免許を取得することを支援しています。もちろん、教員免許をお持ちの方は、そうした制度を活用することなく教壇に立つことが可能です。その意味で、教員免許を持っていることが望ましいとは言えます。

Recruiting & Selection

採用・選考

選考は書類審査、筆記試験、集団討論、模擬授業、個人面談等を通じて行います。選考通過者には赴任前研修に参加する権利が与えられ、4月から学校現場に派遣されます。

TFJへの理解を深めていただける機会を多く設けています

TFJが主催ないしは外部の企業などと共催し、教育や教師、あるいはキャリアなどをテーマに、定期・不定期問わず、イベントは毎月何度か開催しています。これらのイベントに参加していただくことで、TFJのビジョンやミッション、フェローシップ・プログラムへの理解を深めていただいたり、職員やフェローと話をし具体的な話を聞くことも可能です。

● 2014年度イベント実績（一部）

【共催】

- ・ 社会を変える新たなビジネスキャリア (NPO法人クロスフィールズ様)
- ・ 教育のグローバルキャリア (NPO法人アイセック・ジャパン様)
- ・ 「日本を変える」をシゴトにする (株式会社インテリジェンス様 / 株式会社LITALICO様)

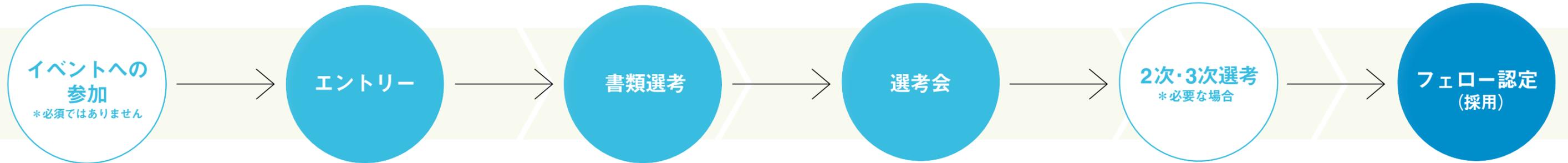
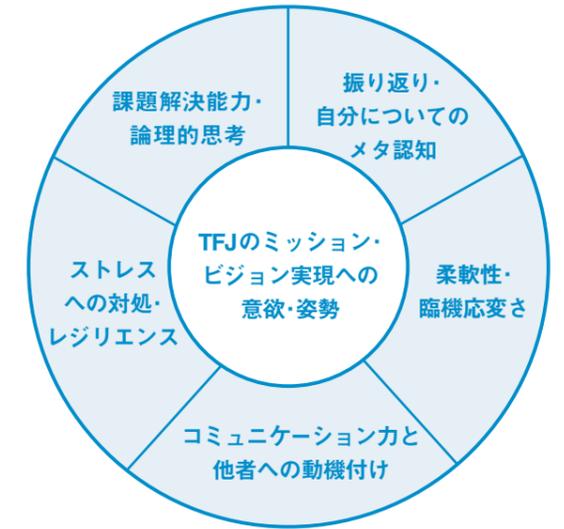
【TFJ主催】

- ・ 乙武洋匡 × 松田悠介「教師というキャリア選択2014@早稲田大学」
- ・ 事業紹介セミナー（平日の早朝・夜に定期開催）

■ TFJの考える、教師に必要なコンピテンシーに基づいて選考を行います

優れた教師やリーダーが備える資質、行動特性（コンピテンシー）について、Teach For Americaのノウハウに加えて、国内外の知見や専門家の意見を取り入れて、選考基準をTFJが日本の教育現場や実情に沿ったものにカスタマイズ。これらに基づいて候補者を選考いたします。

※選考基準や選考プロセスは、改善や見直しにより変更になる場合がございます。



エントリーはWebサイトから行っていただきます

教師（フェロー）になるための第一歩は、Webサイトからのエントリー。ご経歴に加え、志望動機や自己PR、TFJのビジョンやミッションに対して貢献できる点などを記入していただきます。

記入していただいた内容をもとに選考を行います

エントリーをいただいた後、記入していただいた内容をもとに、教師としての適性やTFJのビジョン・ミッションとのマッチングについて検討させていただきます。

選考会では多様なアクティビティによって、現時点での適性やその後の成長可能性について評価します

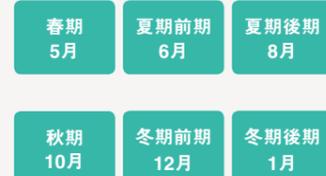
書類選考等を通して方には、事前の電話インタビューなどを経て、選考会に招待をさせていただきます。教師の仕事の多面性を鑑みて、選考会では模擬授業や集団討論、ロールプレイ、面談など、複数のアクティビティによって評価をします。教師の仕事への適性や、教育への意欲・情熱、さらには現時点での適性・スキルだけではなく4月の赴任まで、お

よび教師になってからの成長への期待値を考慮して、総合的に判断をさせていただきます。選考の方法や観点は、現在の教師（フェロー）の選考時の評価とパフォーマンスの比較や、現役の教師や教師経験者からのアドバイスに基づいて、常にブラッシュアップをしていきます。

【2014年度の選考会開催実績】

第3期教師（フェロー）の募集期間である2014年4月から2015年1月までの期間で、選考会を、東京で6回、福岡では2回実施。選考、およびその後の研修を経て、2015年4月には、第3期教師（フェロー）として合計で15名の方が各地の学校に赴任しました。

■ 実施時期



第3期教師（フェロー）
15名

【第3期生のプロフィール】

第3期教師（フェロー）は、右のグラフのように、社会人が8割を占めており、学生（学部生・大学院生）は2割となっています。社会人の経歴は多岐にわたっており、青年海外協力隊などで海外でのボランティア活動を経験した者や、大企業でグローバルなビジネス経験を積んだ者、さらには個人事業主として一流アスリートなどのコーチをしていた者などがいます。経歴こそさまざまですが、教育に対する情熱という点では共通しており、今後、相互に学び合って成長していくことが期待されます。

■ 社会人と学生の割合



Training

研修

選考を通過した応募者は、3週間にわたる合宿形式の赴任前研修に参加します。Teach For Americaで蓄積されたノウハウをベースに、教師として基本的な態度や児童生徒への指導方法からリーダーシップに至るまで幅広く習得します。



■ 研修内容・研修講師

分野	Teaching As Leadershipとの対応	研修のゴール	セッション	講師(専門・所属)
リーダーシップ／ 対人関係構築能力	大きな目標を掲げる／ 生徒やその家族との 関係構築に投資する	自身の信念と強み理解に基づいた 教育実践ビジョンを策定する	ストーリー・オブ・セルフ／MBTI / ビジョン・セッション	Teach For Japan
		生徒の動機づけ・レジリエンスを 高める方法を学ぶ	ポジティブ心理学	足立啓美(日本ポジティブ教育協会)
		保護者との関係構築方法を学ぶ	保護者対応セッション	Teach For Japan
		教育の社会的基礎を学ぶ	自治体の教育ビジョン	福岡県飯塚市教育長
		チーム・ビルディングやチームでの 問題解決手法を学ぶ	科学的なエビデンスに基づく教育政策	中室牧子(慶應義塾大学)
指導力	意図を持って授業計画や 指導のデザインを行う／ 授業実践・指導を効果的に行う	授業設計・教科指導の基礎を学び、 教育実習(学習支援)や模擬授業などでの 実践を通じて授業力を高める	指導力総合／授業設計／教科教育法 模擬授業演習／教育実習	廣水乃生(コミュニティファシリテーション研究所)
		学級運営の基礎や安心・安全な環境形成 についての基礎を身につける	英語科教育法	田中満公子(大阪府立三国丘高等学校前校長)
		発達障害などに関する基礎知識を習得し、 子どもを多角的に理解する視座を身につける	学び合い・子どもの成長を促す教室運営	福岡県飯塚市教育委員会
		21世紀に求められる素質を教員自身が身につけ、 また生徒の創造性を引き出す手法を学ぶ	「勇気付け」アドラー心理学・荒れを「予防」「治療」する	田尻悟郎(関西大学)
		プロフェッショナルとして成長し続け、 生徒に対して持続的に価値提供をするための 自己改善・管理力を身につける	安全・安心の徹底	浅岡千利世(獨協大学)
			読書教育	安河内哲也(東進ハイスクール・東進ビジネススクール)
			子どもの多様性理解	菊池省三(北九州市立小学校教諭)
			創造的な問題解決手法	赤坂真二(上越教育大学(実務家教員))
			インプロ演劇	古賀徹志(九州旅客鉄道株式会社)
			教師のためのICT	Teach For Japan
自己改善・管理力	継続的にインパクトの改善に 取り組む／弛まぬ努力をする		フィードバック・セッション／ 自己管理セッション	高畑脩平(奈良県総合リハビリテーションセンター(作業療法士))
				青山新吾(ノートルダム清心女子大学)
				野口晃菜(株式会社LITALICO)
				小川高子(グーグル株式会社)
				高尾隆(東京学芸大学)
				Apple Japan
				内部講師／フェロー有志 (Teach For Japan)

Ongoing Support

支援

教師(フェロー)には、担当プログラムマネージャーが支援を行います。教師(フェロー)が効果的な実践を教室で展開できるように、評価とフィードバック、ならびに下記の内容を実施します。

■ 教師支援プログラム

定期的な実施

- ・Web上の掲示板での情報発信
- ・授業などで活用できるWeb上のリソースポータルサイトの活用促進や教師(フェロー)の情報交換

週～月ごとの実施

- ・担当プログラムマネージャーとのチェックイン(面談)の実施
- ・事務局通信による情報発信
- ・学校訪問ならびに授業フィードバックの実施

学期ごとの実施

- ・教育実践についての効果測定
- ・休日等を利用した集合研修の実施

不定期

- ・専門家による支援(元教員等によるアドバイスやメンタリング、コーチング)
- ・特別支援に関する専門家による支援(株式会社LITALICOとの連携)
- ・Teach For Allネットワークにおける国際カンファレンスへの出席

■ 教師(フェロー)実績

	1期生	2期生	3期生
フェローシップ期間	2013/4～2015/3	2014/4～2016/3	2015/4～2017/3
フェロー(教師)	11名	13名	15名
学校数	9校	12校	11校
小学校	2校	7校	8校
中学校	3校	5校	3校
高等学校	4校	-	-
担当児童・生徒	1,499名	874名	660名
派遣地域	6都市 奈良4名/大阪2名/兵庫1名/ 京都1名/神奈川2名/茨城1名	6都市 奈良6名/大阪1名/三重1名/ 神奈川2名/東京2名/宮城1名	4都市 福岡6名/奈良3名/大阪1名/ 神奈川5名

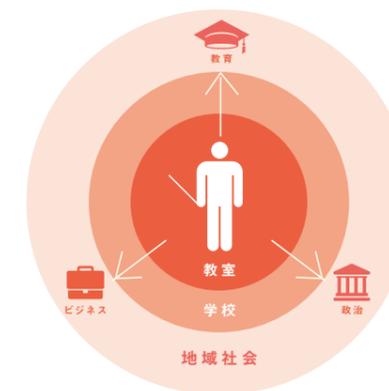
Alumni Network

修了生ネットワーク

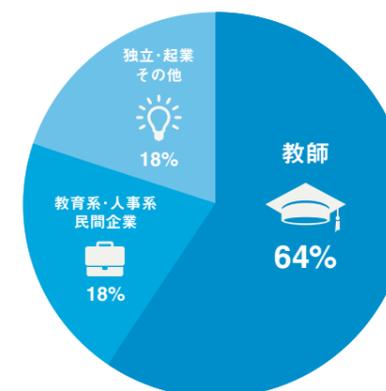
プログラム修了後、教師(フェロー)たちは、そのまま教師の道へ進むか他の分野に就職するか、各自でキャリアを選択します。私たちは、教育課題へ深い理解とその解決への意欲を備えたプログラム修了生たちを教育現場のみならず、行政機関、企業など、社会の様々な分野に広く輩出することで、社会全体で教育課題を解決する仕組みを創造します。

■ 教育変革のエコシステム

TFJの教育変革の取り組みは教室の中だけに留まりません。学校現場の教師として、教育課題解決の当事者としての経験をする中で、学校や子どもたちに対して、強い想いとリアリティを持った人材を多く輩出することにつながります。彼ら・彼女らが、プログラム修了後、学校現場のみならず行政やビジネスなどさまざまなセクターで活躍することで、教育をより良くしていこうという議論やムーブメントが社会全体に広がっていき、教育改革の実現をより確かなものにしていきます。



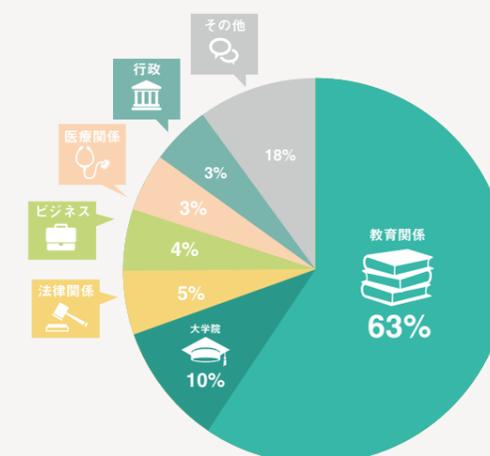
■ フェロー1期生の進路(予定)



2013年の4月、第1期生としてプログラムに参加した11名は、プログラムの修了に伴って、2015年4月からは各自でキャリアを選択しています。その結果は左のようになっており、引き続き教育現場で教師を続ける者が約6割。それ以外では、独立してキャリア支援の仕事始める者や、教育や人事系の民間企業への転職などです。今後、教師(フェロー)としての経験やネットワークを生かしつつ、TFJの最初のOB・OGとして修了生ネットワークの中心となってくれることが期待されます。

Teach For Americaの例

Teach For Americaでは、プログラム修了生の約7割が教育に関連する職業を選択し、そのうち半分が継続して教師として活動しています。他の3割は、行政、ビジネス、起業、大学院進学など多様な進路を選択しています。これまでに70名以上の州議会議員を輩出しており、政治以外の分野では、たとえば全米最大のチャーター・スクール運営団体であるKIPPの創設者であるマイク・フェインバーグとデイヴ・レヴィンや、ワシントンDCの元教育監ミシェル・リーの名前が挙げられます。

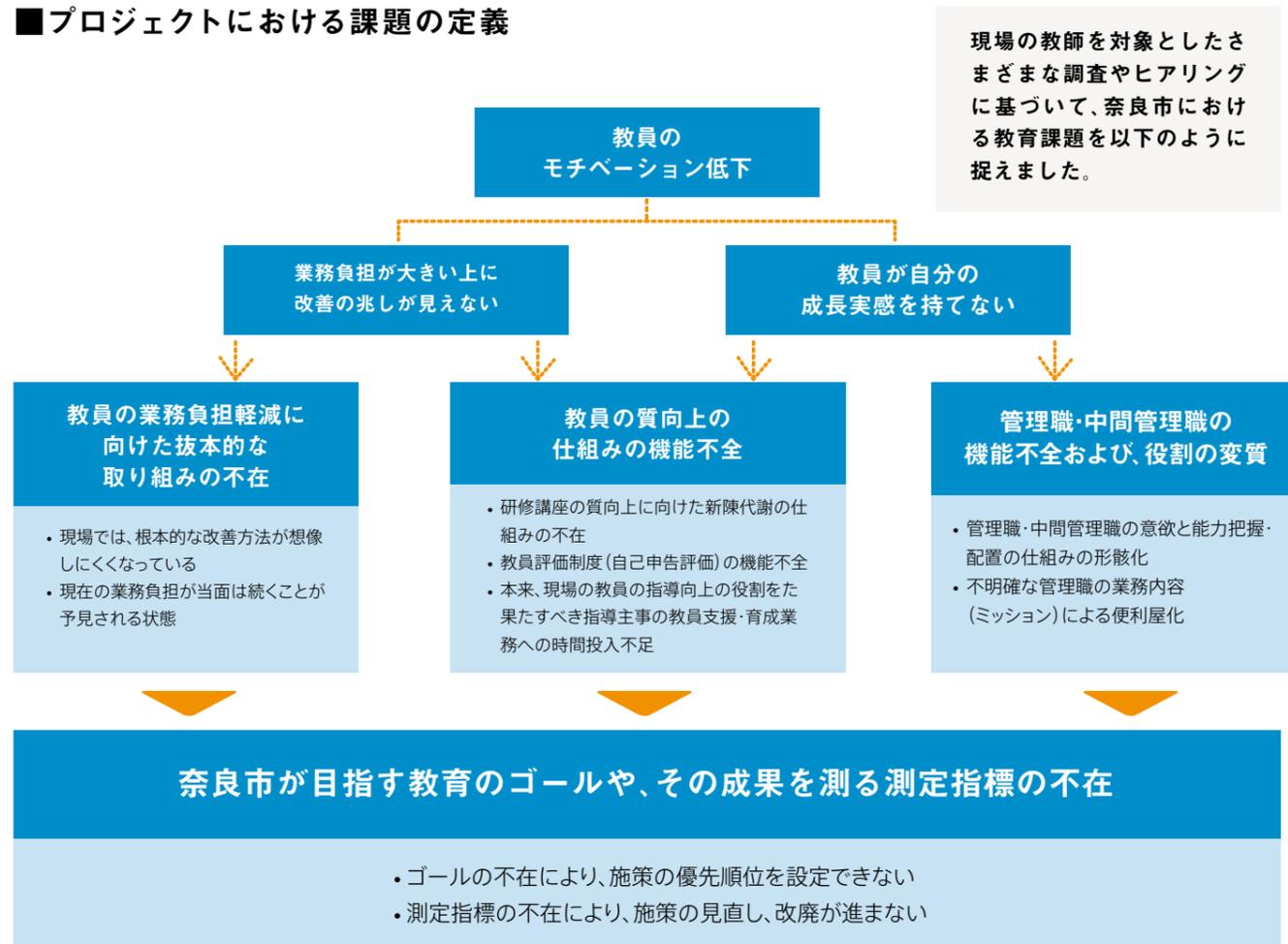


代表理事・松田が委員として選ばれた「奈良市教育振興戦略懇談会」。この会は、奈良市における教員の変革について検討するプロジェクトとしてスタートしました。

■奈良市における教員変革プロジェクトの概要

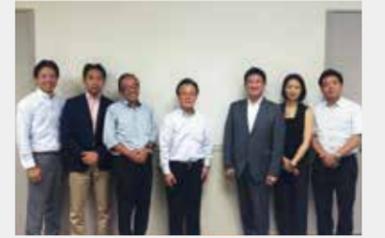
本プロジェクトの目的	調査方法	調査から明らかになった課題とその背景にある真因
本プロジェクトでは、奈良市が「時代の変化に則した質の高い公教育」を実現するための取組みと、奈良市教員が抱えている課題解消のための取組みにつき、提言を行う	奈良市の現状把握と課題抽出を目的として、インタビュー及びアンケートを実施。加えて、奈良市の課題に対する打ち手検討のために、国内外の先進事例を調査	課題の背景には、本来教員のモチベーション向上に寄与すべき既存の仕組みの機能不全と、教育の成果測定指標が存在しないという根源的な真因が存在

■プロジェクトにおける課題の定義



奈良市教育振興戦略懇談会とは？

奈良市教育振興戦略懇談会は、奈良市における教育行政の推進に当たり、グローバルな視点、斬新な視点からの意見または助言を行います。委員には、Teach For Japan代表の松田の他、柴崎洋平氏（フォースバレー・コンシェルジュ株式会社 代表取締役社長）、藤沢久美氏（シンクタンク・ソフィアバンク 代表）、藤原和博氏（元杉並区立和田中学校長、元リクルート社フェロー）、毛受芳高氏（一般社団法人アスバシ教育基金 代表理事）がおります。



■提言

「課題の定義」で明らかになったことをもとに、奈良市がめざす姿と現場の乖離、課題の解決のために行うべき打ち手を1～3のようにまとめ、提言としました。

1 目指す姿と現状の乖離をめるための新たな変革	能力の高い外部人材の採用	意欲・能力を有する外部人材の中間管理職、教員への登用 管理職への外部人材の登用
	新たに求められる能力を養成する研修プログラムの開発	
	ICT副教材の導入による学力格差の是正	
2 既存の教育制度の断捨離	国県市の調査の削減・ウェブ化	
	教員業務の効率化・廃止・外部委託	授業プリント等の電子化・共有化・スクールサポーター・地域支援本部での業務切り出し成功事例の横展開
		小学生のチーム担任制による授業準備負担の軽減
		中学校の部活動負担軽減
	教員養成の質向上に向けた教員評価・指導の仕組みの構築	
	効果の薄い研修の削減	
	有能人材の把握・最適配置の仕組みの構築	
	指導主事の余剰業務削減と教員指導業務への集中	
3 教育変革の成果を確実にするための仕組みの構造	教育の成果測定指標の導入	
	教育政策のPDCAを回す体制の構築	

Learning for All

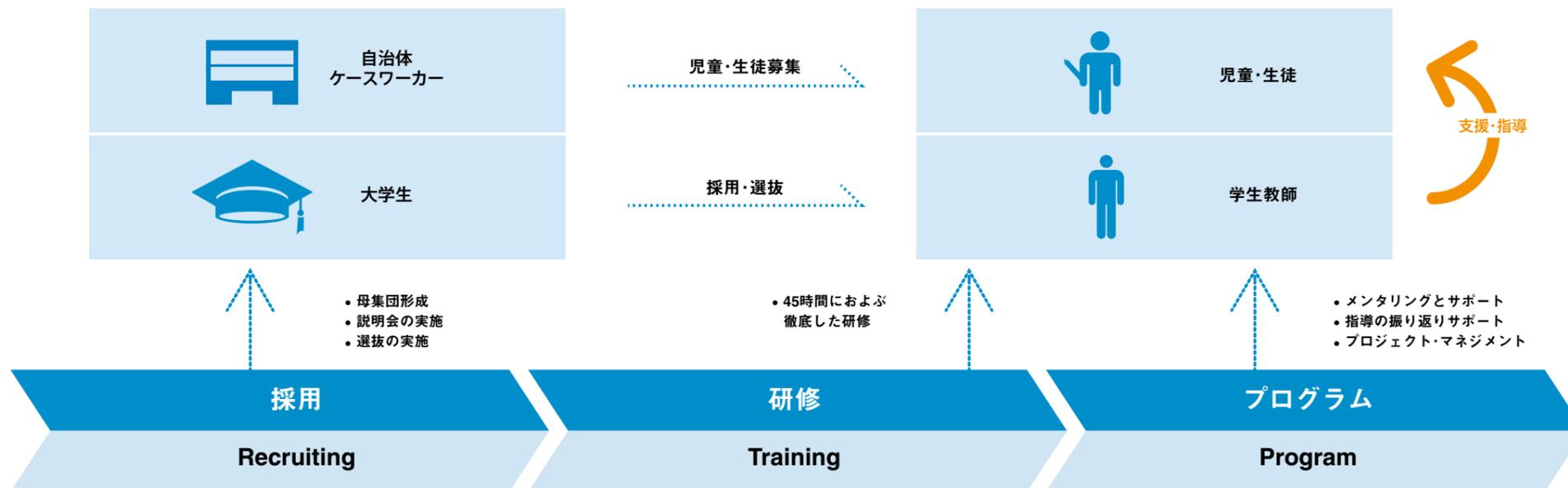
Learning for Allとは？

学習支援を通して、困難を抱えた子どもたちの可能性を広げるとともに、将来教育現場や社会でリーダーシップを発揮する人材を育成する、大学生向けプログラムです。

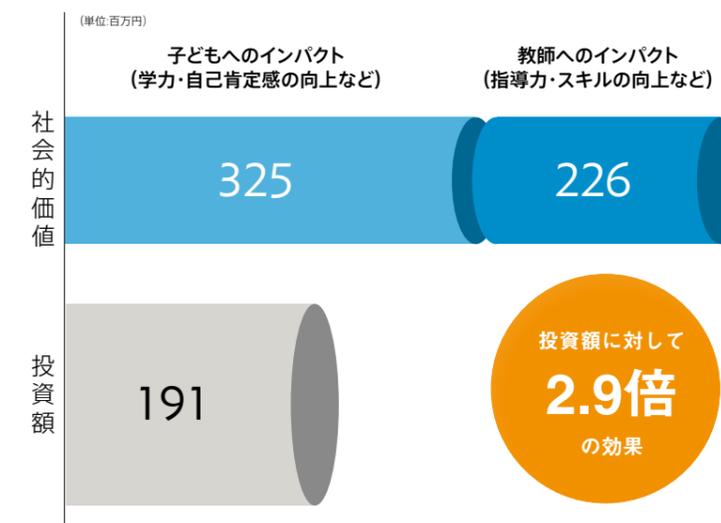
*2015年4月より独立したNPO法人になりました。

2014年度 実績

児童生徒: 604名
 教師数: 256名
 スタッフ数: 82名
 指導日数: 246日
 地域: 東京都 / 大阪府 / 奈良市



■ SROI (社会的投資利益率)



2013年度の活動を対象に向こう20年間のSROIを算出

震災復興支援

宮城県での学習支援プログラム

震災復興支援事業は、東日本大震災被災の影響や経済的な事情により学習環境に困難を抱える子どもたちへの学習支援とボランティア参加者のリーダーシップを育成するプログラムです。

2014年度 実績

児童生徒: 408名
 教師数: 39名
 スタッフ数: 55名
 指導日数: 45日
 地域: 宮城県

子どもの学びと居場所づくり

福岡市での子どもの学びと居場所づくり

子どもの学びと居場所づくり事業は放課後を利用して児童・生徒の居場所や学習環境を提供するプログラムです。3つのNPOの共同事業体として、福岡市より受託して実施しています。

2014年度 実績

児童生徒: 158名
 教師数: 79名
 スタッフ数: 24名
 指導日数: 194日
 地域: 福岡市

■ スタッフインタビュー

私は教師を志して大学へ進学しました。進学前に読んでいた書籍にTFJが紹介されていたことがきっかけで、この活動に参加をしました。活動を通して印象的だったことは、ある女子生徒の変容です。当初はとても静かな子で学生教師の話しかけにも消極的でしたが、担当教師は粘り強く関わり続けました。結果、支援期間の終盤では彼女に笑顔が増え、学力も大きく伸ばすことができました。子どもたちのために、ボランティアとして携わる自分たちが変容をする。これは私たちが大切にしている文化です。私自身、TFJの学習支援に携わり、何が子どもたちにとって最も大切なのか、そのために今の自分には何が足りないのかを自然と考えるよ

うになりました。やはり困難な環境にある子どもたちにとって、被災や貧困などの社会的課題は根強い影響を与えていると実感しています。私もこれから一人でも多くの

子どもたちに笑顔を届けていけるよう、広い視野を持って実力を磨いていきたいと思っています。
 (三浦銀河さん 東北学院大学教養学部情報科学科1年)



■ 卒業スタッフの声

現在は中学校教員として働いています。中学校では様々な特色を持つ生徒がいて、その中で起こる課題もとても複雑です。そこで大切なことは生徒のことを真剣に考え、見つめることだと思います。「この子は何に困っているのか?」「この子にとって必要な環境はどんな場所だろうか?」この事業で一人一人に対して必死に考えてきたからこそ、中学校で多くの人数の生徒を相手にするようになった今でも同じように取り組みます。関わる子どもの明日のために、真剣に向き合うことをこの事業で私は学びました。
 (副島達彦さん 九州大学理学部卒業)

■ 保護者の声

このプログラムに参加をすることで、これまで不得意だった自己表現が少しずつできるようになってきたと思います。いつもこの時間を子どもが楽しみにしています。スタッフのみなさんに感謝しています。



Fellows' Dialogue

フェロー対談

TFJの教師(フェロー)は、TFJで教師になったことをどのように捉えているのでしょうか。教師の仕事について、そして、自身のキャリアについて、第1期の千野フェローと第2期の木村フェローに対談をしていただきました。

——木村さんは第2期の教師(フェロー)として1年を終え、千野さんは第1期の教師(フェロー)として2年を終えたところです。教壇に立って見て、どのような感想を持ちましたか？

木村 まず、自分としては充実して過ごすことができました。そして、子どもたちに対しては、まだまだやるべきことも、やりたいこともたくさんある、というのが感想です。教師の仕事は、やればやるほど課題が出てきますね。

千野 私もそれは同感です。2年間、TFJの教師(フェロー)として活動をする中で、教育でキャリアを歩もうと決意しました。

木村 千野さんは、4月からも教師を続けられるんですね。

千野 はい。教師として、子どもたちとまだまだ関わり続けたいと思ったからです。昨年の夏、教員採用試験に合格したんです。

木村 1期生の方たちが修了して行って、私も、来年のことを少しずつ考えるようになっていますが、やはり教育には関わってほしいと思います。一人でも多くの子どもに、よりよい教育環境をつくってほしいという思いがあるからです。このテーマは、TFJの教師(フェロー)としての2年間だけではなく、時間をかけて、多くの人たちを巻き込んで取り組むべきものだと思います。

千野 木村さんには、そういう思いがあるんですね。

木村 まだ1年を終えたばかりなので、一步を踏み出したばかりですけれどね。この思いが、僕が教師になろうと思った原点なんです。

千野 私の原点は、マイノリティの子どもたちにとって過ごしやすい学校をつくっていくこと。今の学校教育では、子どもたちの基礎学力を向上させることや、知識の活用、「21世紀型能力」を身につけさせることなどが重要なテーマになっています。

その一方で、社会が多様化していく中では、さまざまな背景を持った人たちが、その背景にかかわらず自分らしく生きていけることが

重要だと思うんです。TFJのビジョンにもありますよね。「すべての子どもたちが」という文言。すべての子どもが通う学校という場所を、すべての子どもが等しく成長できる場所にしていかなければならないと思います。

木村 「すべての子どもが成長できる教室」ですね(笑)。TFJは、それをつくってほしいという団体ですから。

——お二人の教育への課題意識がより明確になってきたことがわかりました。

木村 あとは、それをどうやって解決していくか。一人の教師としてできることに積極的に取り組んでいく2年目にしたいです。教師としてはたらきかけることができるのは、目の前の子どもたちに限られるのは事実です。でも、だからこそ、毎日、実に具体的に関わることができるわけですし、教師一人ひとりが問題解決の当事者なんだと思います。

千野 「すべての子どもたちに」というと、行政で政策の策定に関わることだったり、研究をしてその結果を社会に広く訴えていったりということイメージしがちですね。でも、どんな政策も、それを実行するのは教師だし、実際に子どもたちを変えられる存在は教師一人ひとり。教育にはいろんな関わり方があると思いますが、やはり教師が一番の当事者だと感じています。

木村 そうですね。他のフェローでこんなふうに話していた人もいました。「自分も、教育には関心を持っていて、いろんな人と教育について議論をしたり、インタビューをしたりもしてきたけど、やっぱり当事者にならないとわからないことがある。だから、『教育に関心がある』という人には、『まずは当事者になってみようよ』と伝えたい」って。

千野 それに、教師は、子どもたちと毎日関わるので、教育の課題についての理解が多面的になりますよね。私は、大学生の時は臨床心理士になろうと思ったこともあったんですが、それだと「そこに足を運んでくれた子ども」にしか関われないし、何か問題が起きたあとの対応にならざるをえない側面がある。その点、教師は子どもに問題が起きる「前」に、予防的に関わるができる。

木村 結局、教師こそ「すべての子どもたち」と関わりうる仕事なんですね。ただ一方では、教師というのも、教育の課題を解決する手段の一つにすぎないとも感じます。教師や学校だけでできることは限られているのも事実で、外部のいろんな人やセクターと協力をしていきたいと思っています。もちろん、TFJのフェローであるからには、TFJの持っているリソースはどんどん活用していきたい。TFJのフェローである一つのメリットは、そういうことですね。

——お二人が「TFJのフェローになって、これはよかった」と思ったのはどのような点でしょうか。

千野 私は、赴任直前の合宿型研修ですね。同期生たちは、学生だった自分の周りにはいないような人たちばかりで、刺激を受けることができました。研修を受けて、ほかの人たちが感じている課題意識や教師になって実現したいことを知ることで、自分自身が教師になって何をしたいのかが明確になったんです。自分がやりたい授業のイメージも。「教師としてやっていくぞ!」というやる気がチャージされたような感覚でした。だからでしょうかね。多少、大変なことがあっても乗り越えられたのは(笑)。

木村 研修は、TFJならではですね。私も千野さんも、第3期生の合宿研修にも、何日か参加させてもらいました。

千野 来期もまた参加したいですね(笑)。

木村 外部のリソースや最新の知見を積極的に活用してこうとするとところが、TFJの教師(フェロー)のメリットだと思います。2015年4月からは、TFJで、教育の効果測定のプロジェクトが始まるんです。つまり、どのような教師、どのようや教育実践が、子どもたちの成長に最も効果があるのかということデータを測定する、という。TFJと教育委員会、また場合により専門家も巻き込んだプロジェクトということで、非常に期待しています。

——最後に、お二人がこの先のキャリアをどのように考えているかを教えてください。

千野 教育に関わり続けたいです。

木村 私も同じです。「教育」の分野でキャリアを歩んでいきたいという思いは固まっています。

千野 具体的には、私は、今は教師を続けていながら、さまざまな分野とつながっていったらと思っています。学校現場での経験を積んだ後は、教育行政などでその経験を生かしていく仕事にも関心があります。

木村 私は、教育にもTFJにも関わり続けようとは決めています。具体的なことは、もう1年間を思い切ってやっていくうちに、今よりもはっきりしてくるだろうと思っています。

千野 私たちは、TFJのこれからの道をつくっていく立場。そのために、今もこれからも、子どもたちに対してしっかりと「成果」を残していきたいと思っています。

木村 そして、まだ歩み始めたばかりのTFJが、諸外国のように、いや、それ以上に発展していけるようにしたいと思っています。■

“ まだまだ、やるべきことも
やりたいことも、たくさんあります。 ”

第2期生
木村フェロー
(小学校)

“ 今もこれからも、子どもたちに対して
しっかりと「成果」を残していきたい。 ”

第1期生
千野フェロー
(高等学校)

About Us & Our Supporters

組織としてのTeach For Japan

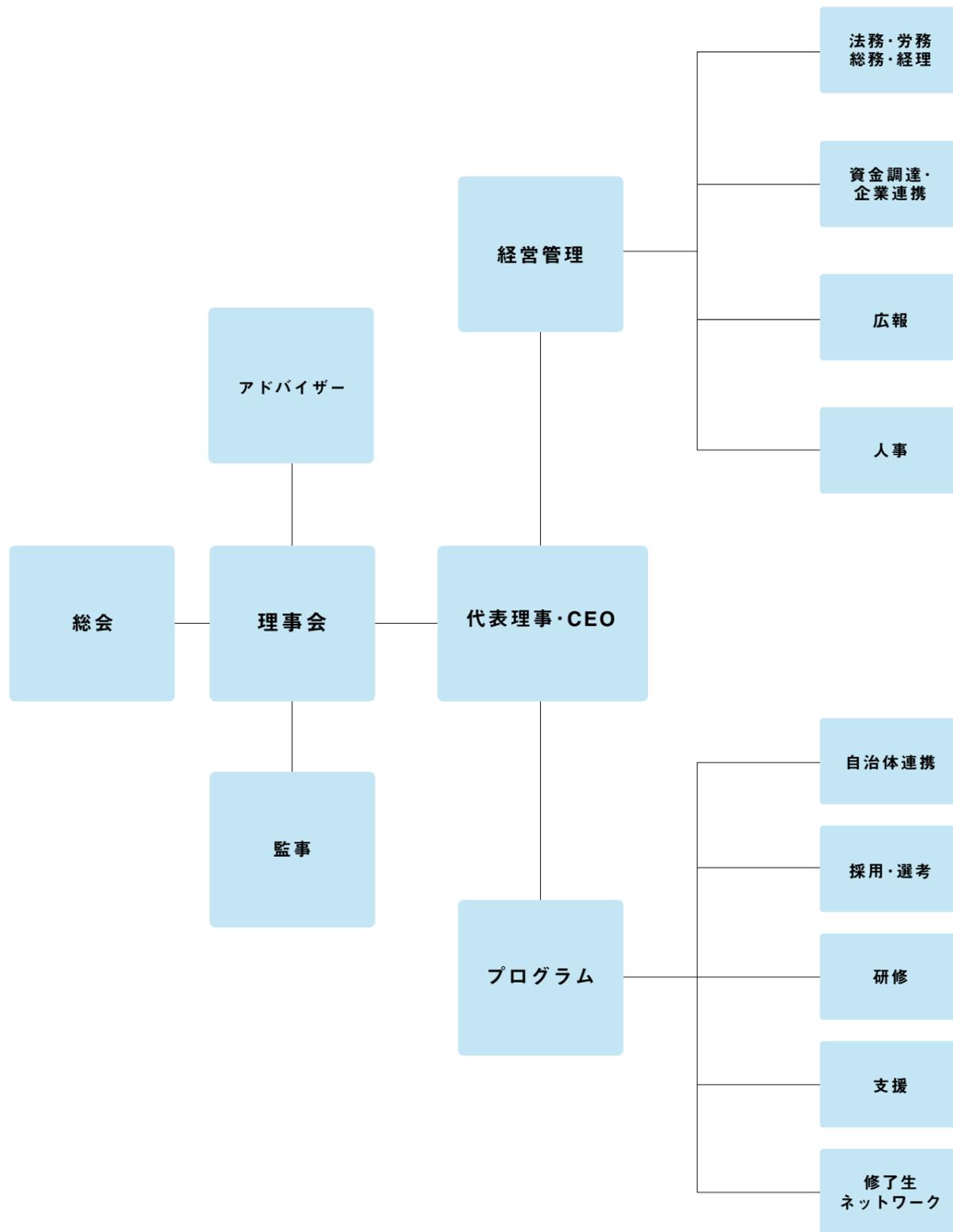
「私たち」ことTFJの組織や職員、そして支援をしてくださっている方たち、財務の状況などについてお伝えいたします。



Governance

組織・ガバナンス体制

今後、より高い目標を達成していくために、TFJは以下のような体制によって運営してまいります。



Staff

職員 ※2015年4月1日現在

教師(フェロー)に多様な経験を求めるからには、TFJの組織そのものが多様であることが必須の条件だと捉えています。職員も、多様な経験と、教育への情熱、そしてプロフェッショナルとしての意識を持ち、ビジョンの実現とミッションへのコミットを果たしています。



松田 悠介
創設者 / 代表理事/CEO (最高経営責任者)

日本大学を卒業後、体育教師として中学校に勤務。体育を英語で教えるSports Englishのカリキュラムを立案。その後、千葉県市川市教育委員会 教育政策課分析官を経て、ハーバード教育大学院(教育リーダーシップ専攻)へ進学し、修士号を取得。卒業後、プライスウォーターハウスクーパース株式会社にて人材戦略に従事し、2010年7月に退職。Teach For Japanの創設代表者として現在に至る。日経ビジネス「今年の主役100人」(2014年)に選出。世界経済会議(ダボス会議) Global Shapers Community選出。経済産業省「キャリア教育の内容の充実と普及に関する調査委員会」委員。奈良県奈良市「奈良市総合計画審議会」委員、「奈良市教育振興戦略懇談会」委員。共愛学園前橋国際大学「グローバル人材育成推進事業」外部評価委員。京都大学特任准教授。著書に「グーグル、ディズニーよりも働きたい「教室」(ダイヤモンド社)。



五十嵐 剛志
CFO (最高財務責任者)

慶應義塾大学経済学部卒業後、あらた監査法人にて主として金融機関に対する財務報告アドバイザー業務、サステナビリティアドバイザー業務、監査業務に従事。2013年よりTeach For Japanにプロボノとして参画。2014年よりTeach For Japanへ出向し、現職。公認会計士。NPO法人会計基準協議会専門委員。



武藤 康平
採用・選考マネージャー

2010年6月よりTeach For Japanの活動に参画。ボランティアとして各種財団等への助成金申請業務支援等を担当。2012年8月より事業部門全体の統轄の補佐(CPO Assistant)、2013年より職員採用業務(HR Manager)と代表理事補佐を兼務、現在に至る。



岡村 洋平
広報マネージャー

京都大学教育学部卒業後、2年間の公立高校教師として勤務。その後、株式会社ベネッセコーポレーションで学習教材や進学情報誌の制作、マーケティングなどに携わる。その後、凸版印刷株式会社でさまざまな企業の販促物や、教師をめざす人向けの媒体の編集などに携わった後、2014年10月よりTeach For Japanに参画し、現職。



山田 育子
研修開発・教師支援マネージャー

東京都立大学人文学部教育学部卒業後、大手IT企業にて社長秘書課・事業企画推進室を経て、2006年より個別指導塾にて7年間教室長業務を勤める。2013年よりプロボノとしてTeach For Japanへ参画、2014年1月から現職。



不破 真理子
九州事業部/研修開発・教師支援マネージャー

1991年九州旅客鉄道株式会社入社。鉄道事業本部にてリーダーとして採用、研修、企画に6年間携わり、独自の人材開発体系と組織を確立。皇室・VIPの接客経験を活かし、社内外における研修インストラクターとしても活動。2004年組織・人材開発コンサルティング会社入社。人材開発事業部マネージャーとして勤務。2011年8月よりTeach For Japanへ参画。



森山 円香
採用・選考担当

九州大学法学部卒業。大学休学中に臨んだ離島 海士町教育委員会および公営塾でのインターンを契機に、2011年在学中に団体の支部として九州事業部を設立し、福岡市を拠点に学習支援事業の企画運営に従事。2012年よりエリアマネージャーとして入社、現在に至る。九州経済フォーラム地域人材育成賞受賞。



堀口 聡子
事務局

早稲田大学教育学部卒業後、味の素株式会社にて10年間営業事務に従事する。2011年より公立小学校の放課後子ども教室にて「英語であそぼう」クラスを受け持ち、現在に至る。2015年1月より事務局としてTeach For Japanへ参画。

Board Members & Advisors

理事・監事・アドバイザー

私たちの思いに共感していただき、教育の未来への洞察と専門的な知見に基づいて協働して下さる理事、監事、アドバイザーの方たちです。

■ 理事・監事



黒川 清
理事

政策研究大学院大学客員教授、日本医療政策機構代表理事、東京大学名誉教授、2003～06年日本学術会会長、内閣府総合科学技術会議議員、2006年より08年まで内閣特別顧問。沖縄科学技術大学院大学(OIST)理事、GHIT Fund代表理事、英国政府から依頼されWorld Dementia Councilメンバー(2014.4～)。



桜井 一正
理事

1999年東京大学文学部心理学科卒業。1999年に株式会社ボストンコンサルティンググループに入社し、2011年より同社パートナー & マネージングディレクターに就任。



齋藤 宏一
監事

1999年3月、東京大学法学部卒業。2008年6月、米国Harvard Law School(LL.M.)。2008年9月から2009年6月までHarvard Law School客員研究員。2010年4月、アンダーソン・毛利・友常法律事務所入所。2013年1月、当事務所パートナー就任。弁護士。



熊平 美香
理事

ハーバード大学MBA取得。昭和女子大学キャリアカレッジ学院長。昭和女子大学グローバルビジネス学部特命教授青山ビジネススクール講師。日本教育大学院大学客員教授。株式会社エイテックマヒラ代表取締役。一般財団法人クマヒラセキュリティ財団代表理事。



三尾 徹
理事

日興シテグループ証券株式会社マネージング・ディレクター、株式会社あすかDBJパートナーズ代表取締役等を経て2010年4月よりミオアンドカンパニー代表取締役。一般社団法人ソーシャルインベストメントパートナーズ理事。東京大学教養学部卒・同大学院総合文化研究科修士課程(国際関係論)修了。



■ 顧問税理士

田崎 暢貞

会計報告・税務申告においてご支援いただいております。とりわけ2014年度は認定NPO法人取得において多大なご支援をいただきました。

■ アドバイザー



武藤 敏郎

株式会社大和総理事長。東京大学先端科学技術研究センター客員教授 学校法人開成学園学長・理事長大蔵・財務事務次官、日本銀行副総裁などを歴任。



米倉 誠一郎

一橋大学イノベーション研究センター教授。1981年一橋大学大学院社会学研究科修士課程修了。1990年ハーバード大学歴史学博士号取得。1995年一橋大学商学部産業経営研究所教授。1997年より同大学イノベーション研究センター教授。2008～2012年より同センター長。Japan-Somaliland Open University学長。



石倉 洋子

一橋大学名誉教授。バージニア大学大学院経営学修士(MBA)、ハーバード大学大学院経営学博士(DBA)修了。マッキンゼー社でマネジャー。青山学院大学国際政治経済学部教授、一橋大学大学院国際企業戦略研究科教授。慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授。



渡辺 一雄

(公財)ユネスコアジア文化センター 参与。1978年文部省(当時)入省、1997～2000年大臣官房、初等中等教育局、高等教育局、学術国際局、体育局、文化庁にて文教行政に従事。その間旧科学技術庁出向(1997～2000年)、2005年アフガニスタン復興支援(JICA教育専門家)派遣、2007年3月文部科学省辞職。2007年4月から4年間の玉川大学教育学部教授(兼教育博物館館長)。



藤野 英人

野村投資顧問(現:野村アセットマネジメント)、ジャーディンフレミング(現:JPモルガン・アセット・マネジメント)、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントを経て2003年レオス・キャピタルワークス創業に参加。CIO(最高運用責任者)に就任(現任)。中小型・成長株の運用経験が長く、ファンドマネジャーとして豊富なキャリアを持つ。東証アカデミーフェロー。



瀧本 哲史

東京大学法学部卒業。東京大学大学院法政学研究所助手を経て、マッキンゼー&カンパニーにて、主にエレクトロニクス業界のコンサルティングに従事。内外の半導体、通信、エレクトロニクスメーカーの新規事業立ち上げ、投資プログラムの策定を行う。独立後は、企業再生やエンジェル投資家としての活動をしながら、京都大学で教育、研究、産官学連携活動を行っている。



武内 隆明

1984年ウィリアムズ大学卒業。野村證券、ゴールドマンサックス、UBS等の日欧米の金融機関で要職を歴任。2002年プルデンシャルFA証券の代表取締役就任。2006年上海で経営コンサルタント会社を起業。帰国後、リベラルアーツ教育の啓蒙活動に注力。



中室 牧子

慶應義塾大学総合政策学部准教授。1998年慶應義塾大学卒業後、Columbia University, School of International and Public Affairsで修士課程を修了(2005年,MPA) Columbia University, Graduate School of Arts and Scienceで博士課程を修了(2010年,Ph.D.)日本銀行では、調査統計局や金融市場局において、実体経済や国際金融の調査・分析に携わった経験をもつほか、世界銀行では、欧州・中央アジア局において、労働市場や教育についての経済分析を担当した。専門は教育経済学。

■ Teach For All アジア地域担当者



Edna Novak
Senior Director, Partner Engagement



Elin Morris
Director, Recruitment, Selection & Marketing



Jake Lucchi
Director, Public and Private Sector Support



Tritia Samaniego
Director, Participant & Alumni Impact



Madhavi Acharya
Senior Associate, Partner Engagement



Pol Fabrega
Senior Associate, Government & Multilateral Partnerships

Special Thanks

Jvpf Japan Venture Philanthropy Fund

日本ベンチャーフィランソロピー基金

経営へのアドバイスと資金の提供の両方での支援をいただいております。

支援期間： **3年(2015年1月～2017年12月)**

支援金額： **3,000万円**

支援のゴール：

①フェロー派遣の拡大・フェローの質の向上

フェローのエンゲージメントを高め、フェローの数のみならず質の向上を図る。結果的に子どもへの良い効果を達成する。採用・研修・戦略的配置・支援の強化。フェロー修了生のエンゲージメント強化。資金調達・優秀なフェロー獲得のためのブランディング。

②成果物の可視化と発信

教育現場における成功・失敗両ケースのファクトセットを整理し、可視化することにより、「優秀なフェローの要素」を分析、団体の強みを明らかにすることでプログラムの改善、資金調達、アドボカシー(政策提言)につなげる。

③行政へのアドボカシー(政策提言)強化

特別免許状の活用を推進・制度設備促進。政府・自治体の教育施策やプログラム策定に影響を与える。

Topics

2014-2015

■ 教師(フェロー)について

3月



フェロー 2期生の3週間にわたる合宿型の赴任前研修を東京・宮城で実施

4月

フェロー 1・2期生
合同勉強会を開催

4月



フェロー 2期生
赴任開始

8月

東北・関東フェロー
1・2期生合同の合宿型
週末研修を実施

8月

関西フェロー
1・2期生合同の合宿型
週末研修

12月



フェロー 1・2期生
合同研修を実施

3月

フェロー 1期生プログラム修了

3月



フェロー 3期生の3週間にわたる合宿型の赴任前研修を東京・福岡で実施

4月

フェロー 3期生赴任開始

2014年

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

4月

■ 組織について

1月



日経ビジネス
「日本の主役100人」
に代表理事の松田が
選ばれる

5月

全米ティーチャー・オブ・ザ・イヤ
ー受賞シャルボノー氏来日記念
イベントを開催

8月



松田が奈良市教育振興戦略
懇談会委員に就任

10月



認定NPO法人として
所轄庁より認定取得

4月



松田がキャロライン・ケネディ
駐日大使とともに学校訪問

6月

ブルガリアでの
Teach For All
カンファレンスに参加

7月

国際青年会議所グローバル・
パートナーシップ・サミットに
松田が登壇

10月



Teach For Japan
設立4周年記念パーティ開催

10月

メキシコでの
Teach For All
カンファレンスに
参加

12月



TFJがエクセレントNPO大賞の
組織力賞にノミネート

2015年

4月

効果測定プロジェクト開始

Financial Report

財務報告

私たちTeach For Japanは健全な財務管理を行い、透明性の高い財務報告を行っていくことでアカウンタビリティ（説明責任）を果たしていきます。

■ 活動計算書

(会計期間:1/1~12/31) (単位:円)

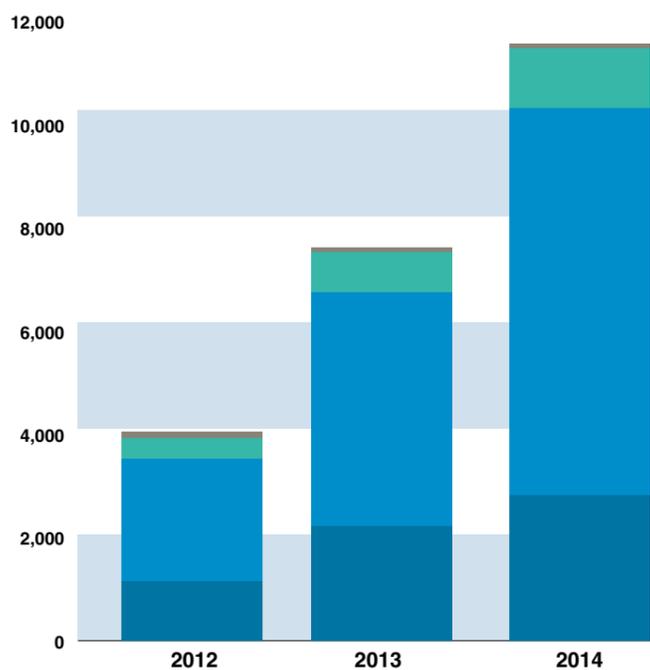
	2012年	2013年	2014年
I. 経常収益			
1. 受取寄附金	12,116,037	22,632,250	28,220,469
2. 受取助成金等	21,341,123	44,758,382	74,601,821
3. 教育支援事業収益	6,171,570	5,188,770	9,310,940
4. その他収益	7,814	105,164	622,634
経常収益計	39,636,544	72,684,566	112,755,864
II. 経常費用			
1. 事業費	28,644,359	51,540,644	79,791,541
2. 管理費	8,152,785	10,734,070	9,813,932
経常費用計	36,797,144	62,274,714	89,605,473
当期経常増加額	2,839,400	10,409,852	23,150,391
法人税等	70,000	70,000	142,000
当期正味財産増加額	2,769,400	10,339,852	23,008,391
前期繰越正味財産額	7,867,172	10,636,572	20,976,424
次期繰越正味財産額	10,636,572	20,976,424	43,984,815

監査の結果、法人の業務の執行に関して法令及び定款に違反する重大な事実はなく、財産の状況は適正なものと認められます。

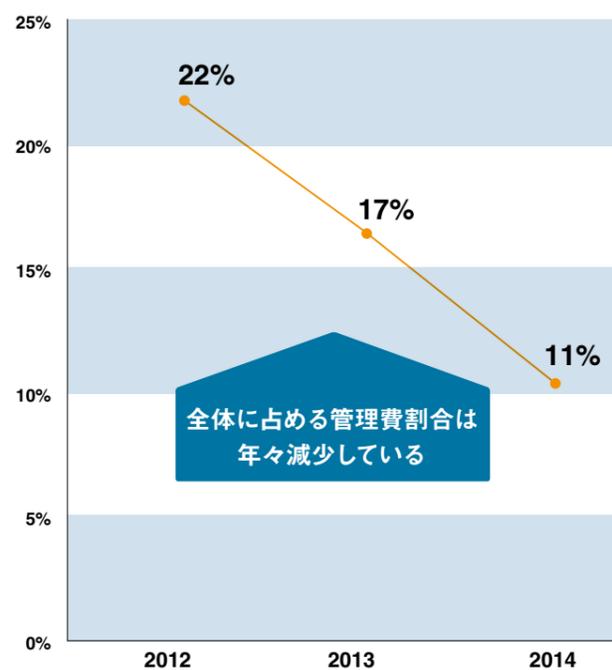
監事 齋藤 宏一

■ 収益推移

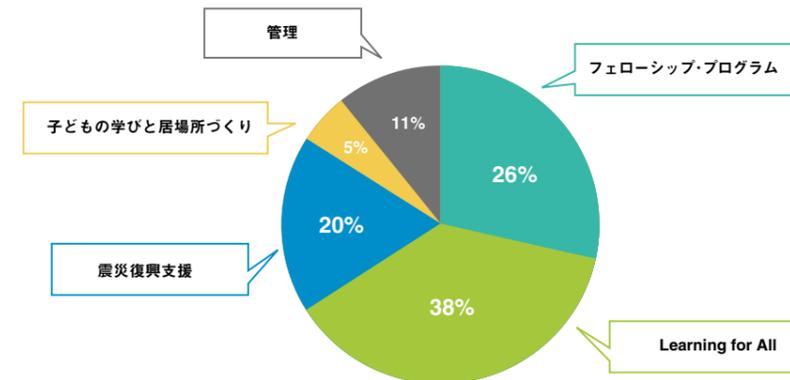
(単位:万円) 寄附金 助成金等 事業収益 その他



■ 管理費割合



■ 費用内訳



プログラム(フェロシップ・プログラム, Learning for All, 震災復興支援, 子どもの学びと居場所づくり)にかかる費用が89%、管理にかかる費用が11%となりました。学生ボランティアの学習支援にかかる経費を全額TFJが負担していることに起因して、Learning for Allの金額が最も大きくなっております。

■ フェロシップ・プログラムにかかる費用の内訳



■ 現状と課題

収益は急速に増加している一方、管理費割合は減少しており、効率的な組織運営が可能となってきています。また、2014年10月には、NPO法人のうち、運営組織及び事業活動が適正である公益の増進に資するものとして税制上の優遇を受けることができる認定NPO法人としての認定を受けることができました。しかしながら、収益の内訳として助成金等の割合が多く、収益の持続可能性に課題があります。今後、より多くの子どもたちに素晴らしい教育の機会を提供していくために、より多くのフェロの採用・育成・支援が必要となってくるため、より多様な安定した財源が必要となります。

■ 計画

TFJサポーター（小口継続寄附者）の増加、継続率の上昇を引き続き目指すとともに、認定NPO法人の税制優遇のメリットを活用して大口寄附者の新規獲得を目指す新たな施策を開始します。2015年度以降はフェロシップ・プログラムに注力していくため、Learning for All事業は独立法人化させ、Teach For Japanとしては実施しません。より多くの自治体と連携し、優秀で情熱ある人材を厳しい状況にいる子どもたちのもとへ送り出すため、自治体連携および採用・選考にさらに注力していく予定です。

■ フェロシップ・プログラム+管理部門

(会計期間:1/1~12/31) (単位:円)

	2014年	2015年(計画)
事業費	22,946,365	42,193,277
自治体連携	1,533,569	6,346,414
採用・選考	6,001,302	13,742,458
教員研修	4,150,737	5,870,382
教員支援	11,260,757	15,781,612
修了生ネットワーク	-	452,411
管理費	9,813,932	16,485,059
経常費用計	32,760,297	58,678,336

Message

支援者からのメッセージ

教育への思いを同じくし、さまざまな立場で支援をいただいている方たちから、私たちに寄せられたメッセージです。

「日本のすべての子供たちに最高の教育を提供する」というTeach For Japanのビジョンは、“Building Trust in Society and Solving Important Problems”というあらた監査法人が加入するPwCグローバルネットワークが社会に存在する意義(Purpose)と一致するものであり、強く共感しました。人材の出自は、会計専門家としての強みを活かして財務活動を支援し、透明性の高い財務報告の作成

を通じて資金調達活動を支援することでNPO側にとってメリットがある一方、組織マネジメントやリーダーシップ強化といった人材育成の観点から出向企業側にとってもメリットがあります。個人の力を発揮して社会に貢献できる貴重な経験と多くの気づきを企業に持ち帰って、より高い意識を持ってリーダーシップを発揮してくれることを期待しています。



PwC Japan あらた監査法人
パートナー 公認会計士

梅木 典子

私がTeach For Japan及び代表理事の松田さんに初めてお会いしたのは2010年の夏頃でした。松田さんの理念と行動力に驚くと同時に、彼の考えている構想が本当に日本で実行可能なのか?と訝ったことを昨日のように覚えています。しかし、松田さんをはじめTFJの皆さんは不可能だと思われた公教育の現場に、少しずつではありますが、確かな風穴を開けつつあります。TFJは、これまでのトライ＆エラーで得られた学びをもとに、いよいよ教育を通じた社会変革を大きく

推進していく段階に移行しつつあります。こうした中で、理事会も、TFJのガバナンス主体として、あるいは松田さんをはじめとする執行メンバーのサポーターとして、より大きな責任と役割を果たす必要があります。私は理事の一人として、TFJが社会の期待に応えながら成長し、より大きなインパクトを実現していくことを、特に成長戦略、組織戦略といった面を中心に、微力ながら支えて参りたいと思っております。引き続きよろしくお願いたします。



ポストコンサルティング
グループパートナー&
マネージングディレクター

桜井 一正

奈良市教員へのインタビュー・アンケート調査や奈良市教育委員会との議論を通じ、改めて、教員という職業の「魅力」と、現在の公立小中学校教員を取り巻く環境の「厳しさ」を痛感しました。しかし、そのような環境下でも、Teach For Japanフェローの皆様の日々の奮闘が少しずつ実を結びつつあることに、大きな将来性を確信し、勇気を持って改革案を策定させて

頂きました。今回、Teach For Japanとして提言した改革案(特に、特別免許状活用による教員採用)が、奈良市から全国へと広がり、1人でも多くの子ども達に「21世紀を生き抜く力」を「楽しんで」身につけられる環境が提供されることを心より願っております。



ポストコンサルティング
グループ
佐藤理恵

私は、経済学の理論や手法を用いて教育を分析する「教育経済学」を専門とする研究者です。子ども1人1人の学力や学習意欲などを数値化した大規模データを用いて、どのような「教育」が子どもらの学力や学習意欲を向上させるのかを科学的に明らかにするような実証分析を行っています。これまでの教育経済学の研究蓄積によると、「教員」は子どもらの学力や意欲に大きな影響を与えることが明らかになっています。しかし教員の質を数値化し収集することの難しさから「どのような教員が良い教員なのか」ということに、十分な答えを出せるには至っていません。私がTeach For Japanと共同研究を始めることになったのは、この大き

なりサーチクエストに対する答えを明らかにしたいという思いとともに、教員という仕事に敬意を払い、情熱をもって現場で教育にあたるTeach For Japanのスタッフやフェローに何かしらの情報や知見を還元できたという思いに突き動かされたからにはほかなりません。私が一貫して主張している「教育に科学的根拠を」これは、教育にかける時間やお金という限られた資源を、生きたものにするためのチャレンジであり、少子化が進み、日本の財政状況が悪化するなかでは大変重要な考え方だと思っています。Teach For Japanとともに研究をする機会に恵まれ、本当に嬉しく思っています。



慶應義塾大学総合政策学部
准教授

中室牧子

教育というのは、ついつい「あれもこれも」と多くを求められがちな分野です。しかし、それに見合うだけの予算や人員が確保されているかといえば、けっして首をタテに振ることができない現状があります。こうした現場にとって、

優秀な若い力を送り込んでくださるTeach For Japanの存在は、どれだけ心強いことか。今後、さらなる発展を遂げ、本家Teach For Americaに勝るとも劣らない活躍を期待しています。



作家・
東京都教育委員会

乙武 洋匡

TFJの事業は、多様なバックグラウンドを持つ人材をフェローとして選抜、育成し、教育現場に入っていく支援を行うものです。教育現場と社会が交流する触媒の役割を果たす点で画期的であり、子どもたちの成長を様々な面で育んでいくものと

期待しています。また教育経験を積んだフェローが社会に広がっていくことは、日本の教育の質を一層向上するものとなるでしょう。TFJのビジョンを達成するため、私たちも全力で支援してまいります。



日本ベンチャーフィナンソ
ビー基金委員会メンバー/
日本ベンチャーフィナンソ
ビー基金ワーキンググルー
プメンバー/一般社団法人ソ
シャルインベストメントパ
ートナース代表理事

白石 智哉

名選手、名コーチならずとよく言われる。確かにコーチになるのは難しい。コーチは、言葉を使い、相手が理解できるように伝えないといけない。さらにコーチングの難しい点は、相手を無理やり動かすことではなく、自発的に動き出すように促さなければならない点にある。良きコーチは良きリーダーでもある。子

供たちに伝えるという経験によって、コーチには相手の気持ちを動かす術を学んで欲しい。子供たちにはコーチから、自分はやれるんだという自信と、挑戦していくエネルギーを培ってほしい。そして人が人に本気で何かを伝えるということの大切さをTeach For Japanに日本中に広げてほしい。応援しています。



一般社団法人
アスリートソサエティ
代表理事

黒木 大

TFJは希望だ。僕は格差社会は恐れない。力量には差があるからだ。恐れるのは、その格差が固定化されていく社会だ。日本という小さな資源もない島国がここまでの発展を遂げたのは、まさに教育の力によって格差が固定化されてこなかったからだ。どんな出身でも勉強さえすれば様々な道が開けていた。しかし、その肝心の教

育を等しく受けることが難しくなりはじめている。富と教育機会が同期化しはじめているのだ。いま世界の現状を直視すると絶望的になることがある。こんな21世紀しか僕たちは次世代に手渡せないのかと。せめて教育の機会均等は次世代につなげたい。格差が固定されない社会を残したい。だから、TFJは希望だ、ひとつの大きな希望なのだ。



一橋大学
イノベーション研究センター
教授

米倉 誠一郎

Teach For Japanは今後の日本の将来において、重要な原動力になると信じています。Teach For Japanフェローたちは、教育の先駆者として、日本の将来を担う子どもたちの好奇心を刺激

し、自尊心を高め、アイデンティティを形成する一そしてこの経験を通じ、フェローたち自身も成長することから、このプログラムはキャリアのスタート地点としても素晴らしいものであると確信しています。



Managing
Director of Japan
Equity Research

Jesper Koll

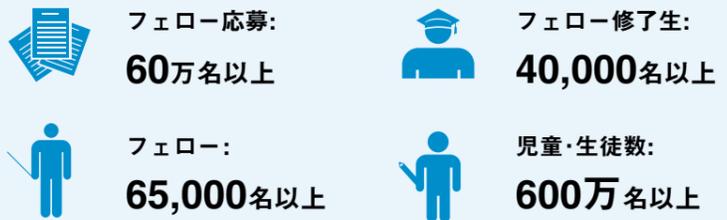
Global Network

海外とのネットワーク

Teach For Americaから始まった教育改革の取り組みは、イギリスのTeach First、インドのTeach For Indiaなど、世界30カ国以上に展開するTeach For Allというグローバルネットワークになっています。



Teach For All全体での実績



Teach For All加盟国36カ国

*2015年4月現在

アメリカ	エストニア	タイ	バングラデシュ	ラトビア
アルゼンチン	オーストラリア	中国	パキスタン	リトアニア
アルメニア	オーストリア	チリ	フィリピン	ルーマニア
イギリス	カタール	ドイツ	ブルガリア	レバノン
イスラエル	コロンビア	日本	ベルギー	
インド	スウェーデン	ニュージーランド	ペルー	
ウルグアイ	スペイン	ネパール	マレーシア	
エクアドル	スロバキア	ハイチ	メキシコ	

TEACHFORAMERICA

Teach For Americaは2010年度の全米文系学生就職先人気ランキングで1位を獲得しました。

1990年に当時プリンストン大学の4年生だったウェンディ・コップ氏によって設立された教育NPO。教員免許の有無に関わらず、2年間、アメリカ国内の一流大学の学部卒業生を国内各地の教育困難地域にある学校に常勤講師として赴任させるプログラムを実施しています。2013年には46地域で約11,000名の将来有望な人材が教育問題の顕著な学校・地域で教員として働いています。



TeachFirst

Teach Firstは2013年度の全英就職者数ランキングで1位を獲得しました。

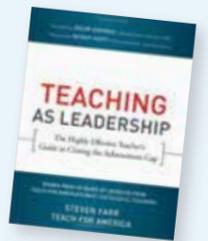
2003年にスタートした英国のプログラムでは、フェロー延べ7,000名を厳しい状況にいる児童・生徒の多い地域・学校へ送り出しました。プログラムを受けた児童・生徒の数は100万人を超えています。



Teaching As Leadership Framework

Teaching As Leadership Frameworkとは、Teach For Americaで実績を上げた教師たちの行動をまとめたものであり、以下の6つのフレームワークに分かれています。

1. 大きな目標を立てる
2. 生徒やその家族を本気で取り組ませる
3. 目的を持って計画を立てる
4. 効果的に行動する
5. 効果を追求し続ける
6. 弛まぬ努力をする



Our Supporters

協賛企業

私たちの活動は、協賛して下さる個人や企業・団体さまからの寄付によって成り立っています。具体的には、以下の企業・団体さまより、さまざまなかたちでの支援をいただいております。

資金提供

■ チャンピオン



ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会
Johnson & Johnson Contributions Committee



■ パートナー



Deutsche Bank Group

■ アンバサダー



■ サポーター



■ ドナー



三井住友
ボランティア基金

■ その他

福岡地所株式会社



株式会社南陽

株式会社個別指導塾スタンダード

サービス無償提供

■ プロボノパートナー



■ オフィススペースの提供



【ご支援方法】

教育が変われば、社会が変わる。教育変革のムーブメントを推し進めていくための、サポーターになっていただけませんか。Teach For Japanでは、様々なかたちでのご支援を受けつけています。

認定NPO法人Teach For Japanへのご寄付は税制優遇の対象となります。

最大で寄付したお金の約50%が戻ってきます。

例：100万円を当団体に寄付していただいた場合。



寄付

月々1,000円からの継続的なご支援により、事業の継続的な運営が可能になります。

プロボノ

プロボノ(専門性を活かした社会貢献活動)としてのご支援も大きな力になります。

ほんがえしプロジェクト

古本をご寄贈いただくと、その買い取り額がTFJの運営資金になります。

Teach For JAPAN

教育が変われば社会は変わる。教育改革のムーブメントを
推し進めていくため、皆様の声をお聞かせください。

私たちは多様な意見を尊重し、常に学び続ける組織で
ありたいと考えています。

mail to: info@teachforjapan.org